

市長提案説明要旨

令和2年11月30日

本日ここに令和2年第4回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案等の説明を申し上げます。

《はじめに》

(冒頭)

始めに、先週の28日早朝、鹿島港で釣り船と貨物船が衝突し、釣り船が沈没するという不幸な事故が発生しました。

現在、事故原因の究明中とのことですが、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、重軽症を負われた方々へのお見舞いを申し上げます。

(コロナの情勢)

新型コロナウイルス感染症につきましては、11月以降、全国的にクラスターが発生するなど、感染拡大のスピードが急速化しております。

茨城県においても、11月中旬以降、1日当たりの新規感染者数が何度も更新されるなど、非常に深刻な状況となっており、茨城版コロナNextのステージは、11月11日に「2」から「3」へ警戒レベルが引き上げられましたが、今後の情勢によりさらに強化される可能性もあります。

本市におきましても、11月に入ってから10人以上の新規感染者が確認されております。傾向として、家族内感染が増えてきているのですが、その感染経路がわからないケースも多く、非常に不安を感じているところです。これ以上、広まらないことを願っております。

茨城県では国の方針に基づき、新型コロナウイルス感染症と症状の見分けがつきにくい季節性インフルエンザの流行に備え、診療・検査体制の抜本的強化を図ってきており、特に、「検査プロセスの見直し」につきましては、「帰国者・接触者相談センター」を介さず、地域の身近な医療機関で診療・検査できるような体制づくりを行ってきております。

それに加え、鹿行地域におきましては、鹿島医師会が中心となり、入院が必要となった場合にスムーズな受入れができるよう、診療所と病院間の連携強化を図られるなど、医療関係者の皆様方には、多大なる御尽力をいただいておりますことに、あらためて感謝申し上げます。

市といたしましても、今回、診察及び検査体制の確保に御協力いただく市内医療機関に対する支援のほか、疑い患者の入院受入れに対応していただく鹿行地域の5病院への支援、さらには、お子さん方の健康を守るために御尽力いただいている市

内小児科に対する支援など、複数の支援事業を行うことといたしました。

併せまして、感染拡大や重症化を防止する観点から、リスクの高い高齢者などの希望者を対象とした抗原検査を無料実施することといたしました。

今後、潮来保健所や医療機関等と連携して情報把握に努め、医療機関に対して様々な形で支援するとともに、鹿嶋市新型コロナウイルス感染症対策本部を適宜開催し、専門家の御意見も踏まえながら、最大限の警戒感をもって対応してまいります。

市民の皆様におかれましても、引き続き、感染予防対策を講じるとともに、感染拡大防止を目的とした茨城県独自システムである「いばらきアマビエちゃん」の登録・利用など、御協力をお願いいたします。

(秋の台風)

今秋は台風の日本上陸が記録されず、年間を通して上陸がなければ、平成20年以来12年ぶりとなります。

今年はまだ大きな風水害もなく、避難所の開設には至りませんでした。災害時における新型コロナウイルス感染症対策として、災害発生当初に開設する避難所を市内12箇所に拡大し、避難の分散化を図るとともに、パーテーションや段ボールベッドなど、コロナ下での避難所の環境整備を進めております。また、それらの災害時避難所では、市職員や公民館職員を含め地区の皆様と共同して運営できるよう、避難所単位で訓練も実施しているところです。

併せて、区長の皆様に地区集会所等の避難所活用について相談し、18地区において御協力をいただけることとなり、今後の活用に向けて備蓄品等の配置をしてまいります。

引き続き市民の皆様が安心して避難所を利用できるよう、災害対応力の強化に努めてまいります。

(宮中地区賑わい創出事業)

本年の第2回市議会定例会で、複合交流館の整備計画の見直しを表明したところですが、この度、新たな整備方針が固まりましたので、御説明させていただきます。

今回の見直し案では、複合施設を断念し、2つの施設として整備する考えといたしました。まず、鹿島神宮大鳥居そばにある新仲家の新館及び駐車場敷地を活用して増改築し、郷土教育の推進や伝統文化の継承等を目的とした3階建ての歴史資料館を整備する方向で、関係者と交渉を進めてまいります。そして、関鉄跡地駐車場西側には、現施設の老朽化著しい子育て支援センターの機能を主目的とした交流施設を建設したいと考えております。時期は、それぞれ令和3年度から調査や設計等に入り、順調に進めば令和5年度には全て完成する計画で考えております。

この両施設の整備により、中心市街地活性化基本計画に掲げた「鹿島神宮門前エ

リアを町の賑わいと暮らしの中心に」を具現化するとともに、まちづくりの基本理念の一つに掲げる“未来を担う「鹿嶋っ子」を育むまちづくり”を推進してまいります。

《事業の概要等》

続きまして、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げます。

(スポーツでつながるまちづくり)

11月15日、「第99回全国高校サッカー選手権茨城県大会」の決勝が行われ、鹿島学園が4年ぶり9度目の優勝を飾り、全国大会への出場を決めました。初戦は、大会初日の12月31日に三重県代表の海星高校と対戦することに決まりました。

また、同学園の女子サッカー部も「第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会」において茨城県予選優勝、関東予選6位となり、兵庫県で開催される全国大会への切符を手に入れました。こちらの初戦は、1月3日に、大分県の柳ヶ浦高校との対戦となります。

先週26日に両チームの出場報告を兼ねた表敬訪問を受けましたが、男女ともに、持てる力を十二分に発揮し、勝ち上がっていただけることを切に願います。

(未来を創るひとづくり・まちづくり)

本市では、ICT機器を活用した情報教育の充実に注力しており、今回、地方創生に関する包括連携協定を締結している株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シーのクラブパートナー企業の子会社であるキラメックス株式会社と連携し、モデル校である市内5つの小学校で実践的プログラミングサービス「TechAcademy（テックアカデミー）ジュニア」の活用を開始しました。これにより、「自ら考える力」、「創造する力」の醸成が図られ、次世代のIT人材育成につながることを期待しております。

10月31日、「子育て支援活動団体交流会」が総合福祉センターで開催されました。昨年に続く2回目の開催で、鹿行地区で活動する子育て支援団体が情報交換を行い、新たなネットワークが構築されたり、市民目線でより安心して楽しめる子育てのアイデア等が出されたりするなど、これからの子育て支援を支える大きな力として期待するところです。

また、昨年の交流会で、情報発信に関する意見が多く出たことを受け、子育て情報サイト「こそだてRokko（ろっこう）」が立ち上げられました。子育てに関わ

る皆様方の情報共有手段の一つとして、活用していただきたいと思います。

今後も、こうした交流の機会の創出を支援するとともに、さらなる子育て支援の充実に努めてまいります。

現在、市では、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしが継続できるよう、医療・介護・生活支援の3分野において支援を行う「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでおります。

特に、生活支援の分野に関しては、“生活支援体制整備事業”として、12小学校区のうち9つの地域で「地域支え合い会議」を立ち上げ、市民自らができることを話し合い、地域の課題解決を目指す様々な取組みが進んでおります。

また、まちづくり市民センターでは、同じく小学校区を単位として、地域課題の解決に取り組む学習と実践活動を推進する「コミュニティプラン」を今年度作成しているところです。

両事業とも、市民生活に深く関わるものであり、多岐にわたる課題解決のためには、まず市職員や公民館職員の理解と協力・実践が必要であることから、10月8日、そして29日に、地域活動の中で市民が互いに支え合うための職員の役割等について学びました。

これからは、地域の助け合いが重要であるということを常に念頭に置き、地域共生に資する地域活動の普及促進に努めてまいります。

去る11月19日、株式会社セイミヤによる「移動スーパーとくし丸」の出発式が行われました。「とくし丸」は、買い物困難者である高齢者や障がいを持つ方々を対象に、契約者宅の近くを訪れて商品を販売する移動式スーパーです。買い物は商品を探したり、重い荷物を運んだりするなど、重労働にもなります。反面、自分の好きな商品を選んだり、店員と会話をしたりという楽しみな要素もあります。日々の生活に必要な品、そして楽しさを身近で得られる「とくし丸」の存在は大きいものになるでしょう。

また、運行に合わせて本市と株式会社セイミヤとの間で、「見守り活動への協力に関する協定」を締結いたしました。協定の内容は、移動スーパーによる販売時や移動中に確認された、高齢者や障がい者の安否が疑われる状況の報告や、子どもの見守りについての通報を行っていただくものです。この見守り活動が、誰もが安心して暮らせる地域づくりに一役買っていただけると期待しています。

本年4月、鹿嶋市は「待機児童ゼロ」を達成しました。しかし、受入れはギリギリの状態、年度途中の新規受入れに不安もあり、9月に0・1歳児を対象とする民間小規模保育事業所が開所され、来年4月にも民間保育園の開設が予定されております。今後の待機児童対策に加え、老朽化が進む公立幼保施設を再編していく中で、有効な受け皿の一つとして、重要な役割を担っていただけると考えます。

このコロナ禍において実施するか否か心配された方も多いかと存じますが、令和3年鹿嶋市成人式を、年が明けた1月10日、カシマススポーツセンターに会場を変更して実施いたします。新成人の皆様が、成人として、また社会の一員として、新たな一歩を踏み出す契機となり、これから築きあげていく未来が素晴らしいものがありますよう御祈念申し上げます。

市立中央図書館は、開館から35年が経過し、老朽化が進んでいることから、2月頃に空調設備の改修工事を予定しております。工事期間中は、やむを得ず1ヶ月程度の休館が予定され、ご利用される方々には御不便をおかけすることになります。御理解・御協力をお願いいたします。

(地域資源を生かしたまちづくり)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今年度は多くのイベントが中止となっておりますが、12月には茨城県補助金等を活用した民間事業者主体の大規模イベントが予定されております。

12月4日・5日には、鹿島神宮でプロジェクションマッピングなどを行う「日本博in鹿嶋」が、また12月21日から25日までの期間にはカシマサッカースタジアム周辺において、eスポーツや自作アプリコンテストなどのデジタル競技をはじめとした「いばらきスポーツ&アートナイト」が実施されます。

これらのイベントは、民間主導であります。本市の地域資源における魅力アピールの良い機会であることから、市としましても積極的に協力してまいります。

うれしい話題といたしまして、平成29年度に初めて本市へ訪れた、JR東日本が周遊運行する豪華寝台列車「トランスイート四季島」が、今年度は12月5日から来年3月27日までの間、年末年始を除く土曜日に14回、鹿島神宮駅に立ち寄ることとなりました。訪れる皆様が心に残るおもてなしや本市の悠久の歴史・魅力のPRに努めてまいります。

市内商店街の活性化を図るため、来年1月24日から2月14日にかけて、鹿嶋市産の食材をテーマにしたグルメイベント「食のフェア・かしま食べ物語」を開催いたします。4回目となる今回は、昨年に引き続き「鹿嶋だこ」を素材とし、市内の参加店それぞれで独自メニューが提供されます。

このような取り組みで地元食材のPR・普及を進め、グルメのまち「鹿嶋」のイメージを定着させてまいります。

10月3日、鹿嶋のランドマークの1つでもあった鹿島宇宙技術センターにあ

る直径34メートルのパラボラアンテナの運用終了記念式典が開かれました。1988年に完成したこのアンテナは、全国で3番目の大きさで、時空計測の分野で様々な成果を残してきました。しかし、昨年9月の台風で甚大な被害を受けたことから、役割を終えることとなりました。これまで、鹿嶋での多くの出来事を見守ってきた巨大パラボラアンテナに感謝するとともに、鹿島宇宙技術センターにおける情報通信と宇宙科学の研究開発がさらに深まることを願います。

（住んで安心のまちづくり）

神栖市と広域で計画を進めている新可燃ごみ処理施設整備事業につきましては、10月26日に開催された鹿島地方事務組合議会定例会において、建設請負業者が決定され、令和6年4月の稼働を目指し、本格的に進み始めました。

3年後の新処理施設の稼働により、可燃ごみの処理方式が固形燃料化方式から焼却方式へ変更になることから、今後、分別方法の改定も予定しております。市民の皆様におかれましては、ごみの減量化と適正処理に向け、引き続き御協力をお願い申し上げます。

現在の都市計画マスタープランの目標年次である令和2年度末が目前に迫る中、都市計画に求められる要素も変化・拡大をしているほか、本市を取り巻く環境も大きく変わってきています。こうした状況を踏まえるとともに、新しい時代に求められる都市づくりを目指すため、昨年度からマスタープランの改定作業を進めており、10月には住民説明会やパブリックコメントを実施したところです。

改定原案では、本市の特色であるスポーツ・歴史・工業の3つの顔に、豊かな自然環境を加えた4つの地域資源に磨きをかけることで、市民の皆様が将来に渡って豊かに暮らし続けることができる「持続可能な都市づくり」を目指しています。

今後、皆様から寄せられたご意見等を参考に、最終案の作成に努めてまいります。

（自立した信頼のあるまち）

現在、令和3年度当初予算の編成事務を進めているところであります。歳入では、新型コロナウイルス感染症の影響等により、市税の大幅な減収が見込まれるところです。その一方、歳出では、感染症予防のための「新しい生活様式」への対応、新可燃ごみ処理施設の建設、少子高齢社会の進行、教育用タブレット等のICT機器の維持管理、公共施設の老朽化対策等による増が予定され、極めて厳しい状況が続く見込みです。

持続可能な財政運営とするために、財政調整基金の残高に留意しつつ、効率化・合理化の観点から、新規事業も含めた事業の再構築に努めてまいります。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げました。

《提出議案等》

次に、提出いたしました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が6件、条例関係議案が6件、人事関係議案が1件、指定管理関係議案が6件、その他の議案3件、報告関係議案が2件の合わせて24件であります。

まず、予算関係議案は、令和2年度の一般会計及び特別会計などの補正予算であります。

一般会計補正予算については、自立支援給付事業や救急医療対策経費、中学校大規模改造事業の補正などであります。

国民健康保険特別会計補正予算については、国民健康保険事業費納付金の補正などであります。

後期高齢者医療特別会計補正予算については、後期高齢者医療広域連合納付金の補正などあります。

介護保険特別会計補正予算については、保険給付費や地域支援事業費の補正などあります。

鹿島臨海都市計画事業鹿嶋市平井東部土地区画整理事業特別会計補正予算については、補償・補填及び賠償金の補正であります。

下水道事業会計補正予算については、社会保険料負担金の補正であります。

条例関係議案は、全て改正するものであり、鹿嶋市手数料徴収条例の一部を改正する条例などあります。

人事関係議案は、鹿嶋市教育委員会委員の任命についてであります。

指定管理関係議案は、鹿嶋市老人福祉センターの指定管理者の指定についてなどあります。

その他の議案は、訴訟の和解についてなどあります。

報告関係議案は、水道事業会計と一般会計における補正予算の専決処分についてあります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、担当の総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。